

意識作用・自己の階層(2) (マインドフルネス・禅の階層)

意識作用	自己の 深さ	坐禅	
		単独 行動時	対人行動 時(世界 創造時)
感覚	感覚的 自己	(B)ここが 中心の 坐禅もある	
思考	知的 自己		
(行動) 意志作用	意志的 自己		(A)動中 の工夫を いう禅
行為的 直観	叡智的 自己		
創造的 直観	人格的 自己	(A)ここを いう禅	(A)悟 後の修行
絶対無・絶対的一者・無分節 (A)ここをいう説もある、 無いという説(B)もある)			

マインドフルネスに浅い深い種々の流派があるように
坐禅にも種々ものがある。

西田哲学が絶対的一者といった体験を「悟り」「見性」という。

(A)これがある、(B)ないという学問的論争が行われた。

ほとんどすべての論文が収録された。

竹林史博「曹洞宗正信論争」曹洞宗龍昌寺、2004

西田哲学、鈴木禅学は(A)である。